

REPORT.1

西武鉄道



『Nicot』はNear・Interesting・Convenience・Original・Togetherの頭文字でもある。

駅チカ保育所「Nicot」で 笑顔広がる価値ある沿線に

西武グループが展開する駅チカ保育所『Nicot』。地域住民の子育て支援を通じて笑顔を育むことにも取り組み、長期的な沿線価値の向上を目指す。鉄道会社ならではの発想と地盤を生かし、住みやすい地域づくりに貢献する挑戦が注目されている。

取材・文●清水友樹／撮影●織本知之／写真提供●西武リアルティソリューションズ



駅直結の商業施設『グランエミオ所沢』に入る『Nicot所沢』。店舗エリアから少し離れた一角にある。

『Nicot』の園児が参加できる、狭山丘陵にある「ペルーナドーム」で行われたスポーツカリキュラムの様子。



保育所設立はグループ内交流から

「でかける人を、ほほえむ人へ。」をスローガンに掲げる西武グループでは、沿線に住む人たちの子育てをサポートし、住み良いまちづくりを進めている。なかでも長期的に取り組んできたのが、東京と埼玉の西武鉄道沿線で保育事業者と連携して運営する、認可保育所『Nicot』の開発である。

その設立経緯について、西武リアルティソリューションズ商業運営部の黒木公美氏は次のように話す。

「グループの社員が集い、情報や意見を交換し合う『ほほえみ向上委員会』（現・ほほえみFactory）で、ある社員から『駅に子育て施設をつくってみたいかどうか』という提案が出ました。この提案が採用され、2010年

6月に東久留米駅の駅ナカ商業施設『エミオ東久留米』内に、当社初の保育所である『Nicot東久留米』が誕生しました」

2021年4月までに、12カ所へ拡大した『Nicot』は、いずれも駅直結の商業施設内や高架下など「駅チカ」にあり、西武線で通勤する人や駅周辺で働く親は特に送迎の利便性が高い。規模の大小は拠点によって異なるが『Nicot所沢』は、所沢駅直結の商業施設『グランエミオ所沢』内にあり、定員60名の規模で運営する。保育所には、広いテナントスペースを必要とするため、収益性だけで考えれば、他の

テナントを誘致する方法もある。しかし西武グループが重視するのは短期的な利益ではなく、長期的な視点での沿線価値向上である。

園内は防音で、「プライバシーを重視し、園児の姿がガラス越しに覗かれない構造にしていますが、保育所ができたことでグランエミオを利用する親子連れも多く見られます。通勤途中に駅でお子さまをお迎えして、ついでにグランエミオで夕食のお買物を済ませて帰れるといった利便さは駅チカ保育所ならではだと思います。また保育所を誘致したことで施設としてのブランド価値向上にもつながっていると感じています」（黒木氏）

鉄道会社ならではのカリキュラム

『Nicot』の魅力は、立地だけでなく園児が参加できる鉄道会社ならではの独自カリキュラムにもある。

例えば、西武鉄道の車両基地見学や、西武ライオンズと連携し『ペルーナドーム』で「投げる・打つ・走る」の体験ができるスポーツカリキュラム、『狭山スキー場』でのウォータースライダーイベントなど、グループが保有するさまざまな施設を活用したカリキュラムが人気だった。

また「駅チカ」という好立地ゆえに大きな園庭の確保が難しく、園児が屋外で自然と触れあう機会は限られる。子どもたちに自然に親しんでもらうた



『Nico!』の年間行事の中で1、2位を競う人気を誇る車両基地見学。年長組が参加できる(上)。車両基地見学、車内から車両清掃の様子を見て興味津々の園児たち(下)。



『えみきっず』の内装は、鉄道会社設立の保育所らしく、鉄道モチーフにしたデザインが各所に施されている(上)。保育所内には本物の吊り革も(下左)。本社ビル1Fに園を構えており、保護者は子どもとの発熱など急なお迎えが必要なお迎えがしやすい(下右)。



めに、グループ会社である西武造園と企画して、狭山稲荷山公園での「森の運動会」を実施し「葉っぱ玉入れ」や「どんぐりリレー」「宝探し」などを行った。

これらの体験は、園児にはもちろんのこと保護者にも好評だ。保護者が車両基地見学に参加し、園児と一緒に熱心に楽しむケースもあり、「大きくなったら電車の運転士になりたい!」など、夢を膨らませる園児も少なくないそうだ。

企業主導型保育事業への取り組みも

西武グループは、『Nico!』を開発する一方で、西武鉄道本社ビル内には企業主導型保育施設『えみきっず』も設立、こちらでは西武グループ社員が0〜2歳の乳幼児を預けることができる。

西武鉄道人事部の高橋永乃課長は『えみきっず』について「西武グループは女性活躍を推進していますが、待機児童の問題もあり復職に時間がかかるケースがありました。加えて、鉄道事業では土日や早朝・深夜の勤務をする場合もあります。こうした事情も勘案し、当社で育児環境を整備したいと考えていました。そこで国の助成金制度を活用し、本社ビル内に保育所を設立することにしました」と経緯を話す。『えみきっず』は365日開園し、

土日も柔軟に対応する。手ぶらで子どもを預けられるように、園内にはおむつや着替えの保管スペースを完備。従業員の働きやすさに寄与している。

沿線の未来に「ほほえみ」を増やす

「ここにこ」「ほほえみ」など笑顔にまつわる言葉にちなんだ『Nico!』や『えみきっず』という名称には、西武グループの「子どもたちが笑顔で健やかに育ってほしい」という想いが込められている。

西武グループが展開する保育施設に通った子どもたちが大人になったとき、愛着のある西武鉄道沿線で子育てをする——西武グループはそんな未来の実現に向けて、種を蒔いている。



西武鉄道人事部 課長

高橋永乃
Hisano TAKAHASHI



西武リアルティソリューションズ
商業運営部 管理担当
アシスタントマネージャー

黒木公美
Satomi KUROKI